

五月一日 (水) 晴 暖

受信 一通 相葉君

何時しか 意義ある興亜奉公日の朝はおとづれたラジオは君ヶ代を唱じ敬礼を行ひました、
皇軍壮士の武運を長久する共に戦没、戦傷勇士に感謝すると共に故郷にある祖母、父母の
安寧を祈り、厳肅なる朝はすぎました、

社頭に立てるは興亜奉公日の大看板

一、請求書の処理

一、その他

終って 食堂にて大坪技師より当社製品の概要に就いての講義あり

五時十分より七時まで

風呂に行く 十時ネル

欄外の記事

窓の竹のさ鳴りあかろき五月かな (東洋城)

エチオピア皇帝亡命 (昭和 1 1) ガソリン切符制実施 (昭和 1 3) 秋田地方大震 (昭和
1 4)

五月二日 (木) 晴 暖

今日からインキが万年筆に入れたのでインキで書く、いつしか春も過ぎ青葉の陰なつかし
き候となりました。本当に熱いと言ってもよいようです。

業務は日毎変わらず、

今日お習字です、この間清書を上げたのを返して戴きました。

主 天 山 . . . (清書)

練習したのは

戸 ・ 空 光 気 志

終って残務整理八時社を出る

九時半 ねる

欄外の記事

笑って答へず心自ら閉 (支那金言)

詔して風土記を作らしむ (和銅 6) 伊画家ダ・ヴィンチ没 (1519)

五月三日 (金) 晴 暖

受信 三通 須田 昇君 吉川 定雄君 永瀬君

風が出て来た 晴れた空に風が出るとは ？しい土地特徴のから風が強い。

臨港故障があって十分程遅れる

午前中日誌をかき買入先 計算

午後 振替仕訳請求書、処理

久し振りにて早く帰る明るい内に帰ったのは本当にたのしい

永瀬君のお母さん深川に行かれて八時半頃かへられる、

学校時代の思ひ出を活かしたり笑いさざめき九時半止めて部屋に入りて日記をかく、今日
葉書五十枚程買ふ

欄外の記事

出雪のや大社泊りの春の人（八重桜）

済南事件勃発（昭和3）嘉納治五郎没・重慶大爆撃（昭和14）

五月四日 （土）晴雨 暖

受信 二通 高瀬フミ様 鈴木秀吉様

ラジオ気象通報で午後より曇りにはか雨のある事を聞いた。しかしあつかったけれどもレンコートを着て出かける、電車の中でも本当にレンコートを着てゐる人が少ないのでしこし恥かしかつた位である。

一日中 買入先 計算

残業 七時半まで鶴田さん岡崎さん達早くかへる、八時半家にかへる

午後になると通報の通りくもって夕方近くなると降り出して来た レンコートを着て来て
非常によかつたうどんを夕食に馳走あり

最早雨の音はやんだ十時半になった、明日社内野球大会あり

欄外の記事

知恵は自ら得ざるべからず（ビーコンスフキールド）

独哲学者ヘルパルト生（1776）ノモンハン不法越境（昭和14）

五月五日 （日） 雨 寒

雨だ 雨だ 野球は中止だよ、おお寒いと言ふ程で便所に通ふ回数は多くなる、
八時 朝食をなす 午前中はぶらぶらしてどうも食べすぎた様だ。

午後一時半、大森白木屋劇場に行く蛇姫様を見る。

大した人出であんこが出そうだよ。

遂にほふばのはまが一つこれてしまふ。

ああ、損したよりきまりが悪い 一本立てのほふばをはいて帰った。
節句だ 雨だ 午前に漸くやんだ 七時風呂に行く しょうぶ湯だ。八時かへる、お茶を
飲んで床に就く 九時半

欄外の記事

勝って兜の緒をしめよ (古諺)

マルクス生 (1818) ナポレオン一世没 (1821) 普選法公布 (大正14)

五月六日 (月) 晴 暖 受信 一通 高瀬文子様

日曜日は何故雨が降るのだらう天の定めであろうか、これは吾々の無駄使をなくする為に
降らせるのであらう、
今日は軍靴をはいて行く、
一日中 請求書の整理に終わってしまった、終って後、大坪牧師より講義あり
八時十分前家に帰る
わかもと購入 一円三十銭
靴修理代 一円也
ラジオ府県めぐり 福島県の巻
故郷の盆踊りの声を聞いた
ああ、なつかしい 十時寝る

欄外の記事

わが命も常にあらむか昔見し象の小河を行きて見むため (大伴旅人)

足利義満没 (応永15) タゴール生 (1861) ヒンデンプルグ号爆破 (1937)

五月七日 (火) 晴 暖

受信 吉川定雄様

晴れてみた空も夕方になると曇って来た、風が出て来た 又雨か、
購入帳 締切、又振替仕訳をなす、
買入先元帳の四月残高 調べ
午後 鼻が出たと思ったら鼻血が出て来た、久らく上向になって居ると止まった、午後五
時退社、
夕食後ラジオを聞いて八時床に就く、大した面白い事もなかった

吉川君の手紙に

剣道部福島にて四月十四日に二千六百年奉祝大会にて優勝す三瓶先生凱旋の由

欄外の記事

わが籠を逃げたる小鳥今日もかも野山の空を馳り馳るか（岡本かの子）

本居宣長没（享保15）千島交換条約締結（明治8）最初の博士号授与（明治21）

五月 八日 （水）曇 暖

天気予報を申し上げ 今日南の風、天気は曇り勝ちで次第に悪く明日には雨が降るでせう、レンコートを着て行く

今日 午後三時頃か、課長さんから回覧が来て会計係の仕事振りは余り良いとは思はれない他課から悪く言われぬやに一生懸命やって欲しい

一、自分の席を離れるな（落ちつけ）

一、雑談をするな

一、仕事に熱心であれ

課長

このやうな事であった。

反省してみるに今迄はあまりに雑談多くはしやいだ様な気がした、今から慎重に仕事に熱心に一生懸命やろう、大坪講師の講義あり

欄外の記事

汗ばみし吾に小蟲の飛び来るを殺しつつ壕に乾パンを食ふ（内藤一峰）

新田義貞挙兵（元弘3）大阪落城（元和元）

五月九日 （木）晴 暖

電車にのると汗が出る

本当に熱くなった

これから会計事務の凡て一通りを覚えて行かう故に勉強だ

鶴田さんより買入先の準備を十一日迄で完了する様にと言われました。

よし必ずやって見せるぞ

働儉預金の積数計算をやる

一日中閑であった、

習字あり お清書を出す、

戸 地 空 元 気 志

習字をやって心のひねくれを直して行かう

風呂に行くああ気持ちがよい

もう十時だ、寝よう

欄外の記事

知恵は真実の中に（ゲエテ）

独文豪シラー没（1805）仏画家ゴーガン没（1903）岩野泡鳴没（大正9）

五月十日（金） 晴 暖

朝から雲った憂鬱な天気

僕の仕事は今日から忙しいのだ、一生懸命やろう正午前から請求書が入って来た

計算、購入帳記入 買入先人名之帳への記入 残業七時

会計係の不評判が響いて居る様だ、一生懸命やって早くこの不評判を一掃せねばならぬ、

先が正確に確実にやらねばならぬ、

他課よりかれこれ噂される事は实际いやな事だ

九時半になった、今日も過ぎたか とにかくやろう

欄外の記事

大寺のたるきの下にひびき入る蜂の羽音をおどろき仰ぐ（四賀光子）

三国干渉・遼東還附（明治28）皇軍厦門島敵前上陸（昭和13）

五月 十一日（土） 晴 暖

熱くなった。 实际だ

さぞ 若松は暖くなったであらう

岡崎さんは昨日 故郷へ帰られた徴兵検査の為ぞ甲乙種何れかの方であらう、

買入先支払準備も思ったより早く出来、今日の午後迄には完全に出来ました。

何だか嬉しいやれば出来るやらねば出来ぬ、これだ。何事も考へて実行一つだ。

残業を行ふ

七時帰る

明日 愈野球がある、

十時 寝る

欄外の記事

春開けて諸鳥鳴くや雲の上（普羅）

細川勝元没（文明5）英政治家大ピット没（1778）露皇太子の遭難（明治24）

五月 十二日（日） 晴 暖

野球日和だ 少し風が強いかと思はれるゆっくり七時迄床に居る

永瀬君のお母さんに行き一ツ駅まで持って行ってチツキを出してもらひたいと頼まれたので八時五十分行く、久振りにて自転車に乗った

それから九時十九分出る野球見学に工業学校グラウンドに行く、総務課は堂々設計A軍を破り 十一時より材料課と対戦 惜しくも最初の失敗に一举六点を取られる、続いて一点をくれ それより選手大いに奮戦せる為 二点獲得せしも遂に惜敗す終って倶楽部に祝杯を掲ぐ 倶楽部にて五時半迄遊ぶ、六時五分 家につく ラジオを聞いて十時十分寝る、前日 所長の始球式あり

欄外の記事

悪事千里 (古諺)

日蓮上人伊豆に配流 (弘長元) 英詩人画家ロゼッテイ生 (1828)

五月 十三日 (月) 雨 暖

突如三時、直ぐ前方三百米の山に火事起る。ものすごい火は上る、心配だ僕は三時半頃家の人をさがす音に目を覚まして見ると 驚いたよ それから一時間はもえ続いた、漸く下火になりました。丁度風もなく雨が少し降ってゐたので三軒半位もえた由、

又 寝る 六時半おきて行く 雨降ってゐる

一日中 割合にひまであった

請求書 整理不十分のため さがすのに大へんだった、明日ファイルが入る由

講義あり藤本講師、何だかよくわからない、

困った 残務整理七時十五分 かえる

今朝の話などして ラジオを聞いて九時半 床に就く

欄外の記事

拝観の御苑の菖蒲あざやかに白衣勇士の眼に沁みるかな (黒坂幸花)

松平樂翁没 (文政12) 谷干城没 (明治44) 航研機試験飛行 (昭和13)

五月 十四日 (火) 晴 暖

受信 一通 市橋洋治君

昨日は雨でも最早や今快晴な空で気持が本当によい、此頃から大森一帯は水の不足で大騒である 幸ひ 家はそれ程不足であるとも思はれない時々水道が止まるようである

水は不便だ しかし僕は何時も郷土の軍隊に満州にはれがないと言ふ事が書いてはつてあつた事が何時も頭に浮ぶ 不服は言ふまい

支払い日なり

取立に来た商人僅かに七人也

早く家に帰った 夕飯を食べて静子姉さんと 新井宿の松竹映画館に行く

南瓜と波濤 金十銭也

静子姉さん出してくれる

帰って風呂に行き 十時半ねる

欄外の記事

つつじ咲く野岳の上にわが居れば狭霧流れ来時分かずして（菊池幽芳）

ジェンナ種痘を試む（1796）大久保利通刺さる（明治11）神風号倫敦発（昭和12）

五月 十五日 （水） 晴 暖

寝坊した永瀬君のお母さんに起されて初めて気がつき起きる 十時十分前也

夢の為 思はずネ過ぎたのである、

電車は何時もと同じに行くことが出来た

暇が多い様だ 何か研究材料を考へて藤本牧師の第二回目の講義、何が何だかわからない
あくびの連発だ

七時十分 家にかへる

今日は家に 衛生掃除をやったそうだ

気持がよい様だ

十時近く寝る

欄外の記事

銭投げの遊戯してゐる支那街の子等の群れにも吾れは馴れにき（鮎沢周太）

上野戦争（明治元）五・一五事件（昭和7）航研機成功・世界記録樹立（昭和13）

五月十六日 （木） 晴 暖

風が出て来た、

おきて靴にクリームをつけて顔を洗って飯を食べて七時五分家を出る

大した仕事もなく色々雑役 明日ファイルがくるので少し忙しいかもしれない請求書の整理でお習字あり 一ヶ月会費三十銭となる

七時十分 社を出る

八時家にかへる お習字の紙を買ふ 会社から飯を食べて新聞を見らるともう九時だ

と思つてゐる内に十時だ寝やう

また明日と言ふわけで生活は平平凡凡だ

欄外の記事

人事を尽して天命を待つ（孔子）

桜井駅の訣別（延元元）林子平禁錮さる（寛政4）

五月 十七日 雨 暖

雨だ 霧雨が音もなく降り続けて居る。

自分は未だ傘を買って居ないので借りて行く

軍靴の音勇ましく家を出る

会社の仕事は何時も同じだ 辛抱だ

研究だ 買入先に就いては誰にも負けない様にやるぞ

早や二ヶ月は過ぎた 毎日ぼんやり暮らすが気になって仕方がない。やりたい事が一杯だ。

残業して請求書の整理をなす、ファイルが来た七時半退社、八時十五分家に着く

夕食をなして 話などして十時近くに寝る、

大八と言う人の名が出た 聞いた事のあるやつだ、はっきり頭に残ってみない三組に居たそうだが、

欄外の記事

訣別の言葉短く軍装のきびしき君は頭垂れたり（岡田源吾）

関所の私設を禁ず（明治元）府県制・郡制公布（明治23）

五月 十八日 （土） 晴 暖

発信 一通 家に

六時 起きて手紙を一本家に出す。

実際よい天気だ 一日中 請求書の整理だ

残業をなす、八時十五分家に帰る

坂倉さんより遊びに来いと言われたが、平山先生の妹さんがこられておったので色々と話をして遂に十時になってしまひました。

平山先生は今旭川の連隊におるそうだ。

坂倉さんは山王劇場の裏の下宿屋におられるそうだ折があったら遊びに行かう

明日は日曜だ

今日 福島県下の女学校が修学旅行き一体が上京し約五時間程滞在して帰郷した由

欄外の記事

虹の色ややにうすれて雪残る高山のいかしき姿あらはなり

榎本武揚等帰順（明治2）私設鉄道条例公布（明治20）

五月十九日 (日) 晴 暖

特別記事

蒲田→羽田飛行場 自動車 二十銭

穴守→京浜蒲田 京浜 十一銭

朝から 理髪屋に行って頭刈りだ、一分刈のがりがりだ。金四十銭支払申し候也、九時半蒲田から羽田に行きそれから穴守に行って来た、

丁度、羽田の飛行場では練習機の日本一周行の式があり後にグライダーをつけて飛んで行った、潮が引き穴守の海岸には黒山のような人だ、皆んな大きな袋に貝を一杯入れて重そうに意気揚々と帰って行く穴守神社参拝して京浜電車にて京浜蒲田まで行くもそれから道を間違えて大森区の端まで来てしまった、これは大へんとまたもどって蒲田駅から帰るくたくだ。一時家に着く 昼寝して 風呂に行く 十時近くネル

欄外の記事

結婚は富くじなり (英国俚諺)

桶狭間の戦 (永禄3) 徐州遂に陥落・包囲大殲滅戦続く (昭和13)

五月二十日 (月) 晴 暖

特別記事 双葉山 引退届提出

受信 小包 一ツ シャツ ハンカチ

月曜日やはり会社に行くのが一番楽しい

又 会社終って家に帰る時も嬉しいよ

仕事の一つ違っておった、それは非常に大切な事であった、即ち振替仕訳の間違で数字の間違であった、

鶴田さんに言はれた間違があった場合は直ぐ自分に言ってこい僕がよいやうにしてやるから間違も経験だ 二度と間違の起さん様努力してくれ人生は長いのだ、何もくよくよする事はない又小心にとらはれるなしっかりやってくれと言われて僕は思はず嬉しくなりました。本当に有難いよい人だと僕は思いました どうしても今迄の自分は浅薄な考えで何事もやって来たまた何事も消極的であった様だこれがこんな間違ひをひき起した原因であると思ふ よしやるぞ 講義あり 石渡牧師 山王の夜店に行く 植木を買って来た

欄外の記事

魂ひびく話に更けし旅泊り深きぬむりに明けにけらしも（岡野直七郎）
土佐光信没（大永5）仏小説家バルザック生（1797）

五月二十一日（火） 晴 暖
発信 一通 小包受取の通知

今や世界の情勢は変化しようといてゐる、遂にマジノ線も破れてパリ陥落の声は高まった
英仏は未曾有の大混乱に遭遇している 独逸の機械化部隊の威力はすごいものである
電撃戦である

日誌が一週間溜まってしまった、種はつきてしまった、
岡崎さん昨日こられた 第二乙種だそうである、大一の元気がなさそうだった、体重が不足
だったそうである

残業 七時二十五分帰る
九時十分床につく おできが耳のわきに出来てうみそうだ、不潔にするとこの様になるの
だ

欄外の記事

峡間よりうごき来るもの砲兵隊の車馬のとどろき近づきにけり（中村憲吉）
リンドバーク大西洋横断（1927）神風号荒天を衝いて凱旋（昭和12）

五月二十二日（水） 暖 暑

暑い、今日はこの一言で感想は終わりだ
汗がだくだく出るよ、昼休み金子君とチャ子さーんをやる
講義有り、石渡技師 第二回目 冷凍機に就いて 明日午後0時半より冷凍機試験を行ふ
由
七時二十分 退社

畏クモ、本日ハ青少年栄佳に賜リタル勅語、下シ賜リテ早ヤ一周年記念日であります

欄外の記事

働らけば麦も米の味（古諺）
北畠顕家戦死（延元3）北条高時自殺（元弘3）独音楽家ワグナー生（1813）

五月二十三日（木） 雨 寒

特別記事 五月二十五日分也 ・二十三日分ハ二十五日ノ日ヲ見ヨ

久しぶりの雨だ、うんと降ればよい そうすれば水の不便もどうにか解放されるであらう、おできが右目の側に一週間もたったか 顔はいびつになったよ、此頃はうみも出て大分よくなって来た、

今日は月給日だ 午前中 月給袋に金つめだ、一時頃までに漸く準備完了、

会議室にて給与す、 家に手紙を出す、午後買入先計算

月給は三十二円八十五銭であります、今月が大分差し引かれた、早速下宿料二十円、支払ふ、後の二十円は郵便預金にしよう、

この日誌は二十五日分である、間違えて書いて居くかう間違えないやうに

欄外の記事

午睡すや馬の匂ひがある毛布（金子樗大門）

坂上田村麿没（弘仁2）長藩仏船を砲撃す（文久3）

五月 二十四日（金） 晴 暖

おできは電撃戦を以って益々拡大して行く 遂に征服出来ず蛸の吸出し及び絆そうこうを以って阻止す 漸次鎮定に向ふ

会社では余りに僕の仕事が限定されてゐる様だ、買入先だけでは足りない様な気がする 実際不十分だうんとやって見たい

風呂に行くも水が出ず 上り湯なし本当に困ってしまった

十時寝る

坂倉さん 二十五日の夜 名古屋に帰られる徴兵検査の為

欄外の記事

首あげて昼の水際に歩みする鶉の居りて寂しからしむ（高橋房男）

伊達政宗没（寛永13）舞踊家高田雅夫没（昭和4）皇軍蘭封を占領（昭和13）

五月 二十五日（土）晴 暖

特別記事 二十三日分 二十五日分は二十三日の所参照

会社に行くのが新入社員の内で僕が一番おそい様だ どうも後に行く事は何もかも気遅がして行かない 早く起きて早く行かうずるい考えをすてればいくられて早く行ける

そして又日誌も一週間に少なくとも二遍は出そうどうも自分のさぼる心が気にくわない

蛸の吸出し三十銭 バンソウコウ二十銭 朝 バンソウコウ二十銭 買ふ

家にかえってくるとどうも眠い早くねて又早く起きようそしてはりきってやろう

十時寝る

欄外の記事

大功は細瑾を顧みず（古諺）

楠正成戦死（延元元）米詩人エマソン生（1803）

五月二十六日（日）曇後晴 寒

涼しいと言ふより寒いと云った方が適当だ、朝は曇ってゐたがだんだん曇りが晴れて来た、弁天様のお祭りだ、政子さんは朝の内から出ていった、僕は午前中頑張った裏の子供達とチャッチボールをやっている時子供にまりが当たって鼻血を出させてしまった、午後出かける白木屋の映画を見る、新妻鏡、忘却の砂漠、ニュースを見る家に六時近く帰ると愛子姉さんがこられてゐるもう早いものだ一ヶ月以上も過ぎた、実際夢の様だ、久しぶりで顔を見た、

夕食して話などして 九時過ぎお帰りになった

静子姉さんは今日かえってこられた、二三日前から深川の方に行っておられた、

寝ようもう十時だ

欄外の記事

汗ばみて庭に入り来しが音に冴へて笥の水の落つるがきこゆ（楠田敏郎）

木戸孝允没（明治10）内閣改造宇垣・荒木・池田三氏入閣（昭和13）

五月二十七日（月）晴 暑

発信 畑 政寿さん

ああ、眠い、幾らねてもだめだ

井上さん頭痛いと言って十時半頃帰りました

僕一人で買入先を引受けました、僕は一人でやる必ずやる 誰の手も借りないぞやって見せるぞ

PGC 式瓦斯発生炉に就いて

森安技師の講義あり

終って後 振込み依頼書を書く八時帰る

お茶をのんで十時寝る

十五円 勤儉預金をなす

明日は早く 起きて早く行かう

そうしないと間に合わないぞ

欄外の記事

御いくさのきびしきときを家妻のわれは埃ばかりたててくらせり（斉藤史）
看板に蘭字の使用を禁ず（天保11）日本海大海戦（明治38）

五月二十八日（火） 晴 暑

今日の天気は朝から何だか曇り勝ちな天気であったが、だんだん晴れて来てよいお天気となったが 夕方俄雨があり 今日是一般に曇ったり晴れたり天気です、
七時家を出て行くも十二分の省線で行くも臨港はやっぱり三十二分ので会社についたのは四十五分頃である大した変わりはない、
どうにかこうにか振込依頼書が間に合った間違いが起こらなければよいが、自信たっぷりではないやうだ、
小切手も漸く出来て明日は所長さんの印を頂く事のみです、
五時半 会社を出る
風呂に行くおできも治りました
坂倉さんに出す手紙を忘れてしまった残念である

欄外の記事

中間の道はない—神の奴隷となるか、でなくば人間の奴隷となれ（トルストイ）
曾我兄弟夜討（建久4）片桐且元没（元和元）広東大空爆（昭和13）

五月二十九日（水） 晴 暖

受信 畑 政寿さん
相変わらずの水 不足
週報 購入 五銭
至って生活の平凡には驚く程です、色々と
経済雑誌でも読まふと思ふけれども一向その事が身に入らん唯眠いので一杯だ
勉強なき処に絶対に進歩なし
或る日課長さんの言った事、忘れはしないが実現出来ないそれが普通の人である、それを
実現する人こそ秀れた人、立派な人となる事が出来るのだ、話す事書く事は自由だ しか
し 実現は困難だ

欄外の記事

五月雨の空くずるや砲の音（宮澤孝洞）
皇軍帰徳占領（昭和13）ノモンハンにてソ連機四十二機撃墜（昭和14）

五月三十日 (木) 曇 暖

坂倉さんへ下宿へ手紙を見んな出す遂に名古屋送る事が出来なかった、もう帰ってくる時であらうに何と、御詫びしてよいかわかりません、

得意先%補助簿の記帳

岡崎、坂倉さんは六月一日から現場に行くらしい、お習字は

将 従 良 練習

終って帰ろうとすると電車故障の流言がとぶ 遂どはされて白石まで歩く、

小さい印 頼む 五十銭 也 明晩 迄

欄外の記事

いく日わが事に執してありにけり青葉のうつつ朝夕を見ず (鐸木孝)

ジャンヌ・ダルク没 (1431) 北清事変起る (明治33) 東郷元帥没 (昭和9)

五月三十一日 (金) 晴 暑

五月も終りだ、又日曜がくる 実際早いものだ、坂倉さんおいでになる検査の方は第三乙だそうです、会計から出る人は誰一人甲種合格がない、

あ一情けない、僕は必ず甲種になって立派な国家の干城となろう、

久し振りで早く帰るしかし鍵がしまってめて 家に入れずその辺をうろうろして又学校へ行行って見る、

学校には選挙演説が今晚あります

帰ると家の方が風呂からかへって来て鍵が開いてみた、眠くなったよ 腹が一杯 になると一層 ねむい 岡崎さん明日から現場に行きます

欄外の記事

ひとつ鳴く蛙のひびく飼屋かな (秋桜子)

漢口空爆敵戦闘機二十機撃墜 (昭和13) 厦門敵前上陸 (昭和14)